

2016年4月10日(日)朝10:10~
4月第2共同主日礼拝式説教

復活節第3、役員会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：エジプトから民を救い出された主を 思い出せ

聖書：ユダ 全1章5～13節

＜口語訳＞

新約聖書384頁

ユダ 全1章5～13節

＜新共同訳＞

新約聖書450頁

ユダ 全1章5～13節

＜新改訳第3版＞

新約聖書474～475頁

ユダ 全1章5～13節＜塚本訳＞

新約聖書773～774頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇ユダ書は、エルサレム教会の議長ヤコブの弟ユダが、教会の人々を迷わせた偽教師、偽指導者に迷わされないよう、警告を与えた書簡です。

◇ユダ書全1章5～13節は、3～4節の偽教師の忍び込みの提示と神信仰を持つての偽教師との戦いの勧めに対し、旧約聖書に登場した神に対して「不敬虔ἀσεβής」な人々を実例として提示して警告しています。

⇒「さばき」は、神の専権事項です。

⇒「神に逆らう者」は、「神のさばき」を回避できないのですが、ユダは、この事実を前提にして、神の民で、「神の御子イエス・キリスト様の恵みによって救いに与った教会」へ神の恵みを無にしないように警告しています。

⇒神の救いの恵みを無にさせる偽教師の誘惑が、時代を超えて、神信仰に生き抜く課題なのです。

⇒今日の「偽教師・異端」の働きをどう理解するか、一律ではないが、「神のことば」を語りつつ、これを否定する存在とは、断言できます。

本論；

◇本日、ユダ書全1章5～13節から主の使信に思い・心をとめます。

◆ユダ全1章5節；ユダは、エジプトでの奴隷生活から救い出された神(メシヤ)を思い出せと語っています。

◇5～13節；塚本訳◆前例すでにあり——旧約の例

「5 それで、(もちろん)君達は凡てのことを最終的に(よく)知ってはいるが、(もう一度)思い出してもらいたいと思うのは、主は(初め)エジプトの地から民を(引き出して)救い給うたが、二度目には信じない者どもを亡ぼし、」と、先ず、ユダは語っています。

◇5節；「(もう一度)」、主が「(初め)エジプトの地から民を(引き出して)救い給うた」ことを「思い出してもらいたい」、その理由は「二度目には信じない者どもを亡ぼし」、「最終的にさばく」からだ、ユダは語ろうとしているのです。

⇒神が神の民をエジプトでの奴隷生活から救出されたのは、約束の地カナンを神が与えると約束されたアブラハムの神信仰ゆえです。

- ⇒**ユダ**は、「**二度目**」という表現によって、**神の恵み**を再び無視して、「**エジプトの奴隷生活**」を繰り返す場合を語ろうとしています。
- ⇒その歴史的出来事は、荒野の40年の旅を課せられた**神の民イスラエルの罪**のことです。
- ⇔「**アブラハムの神信仰**」に立つ**神の権威**を託された**モーセ**が**約束の地カナン**を各部族の代表12人を派遣して、偵察させた時、カレブとヨシュア以外の10人は、**カナンの人々**を恐れて、**約束の地カナン**に進軍することを否定するような報告をし、**神の怒り**を受け、40日の偵察の1日を1年として、40年間の荒野の旅を課せられたのです(民数記13～14章に記録)。
- ⇒「**二度目**」は、**神のさばきそのもの**となるとの警告のことばなのです。
- ⇒**ユダ**が訴えていますのは、**偽教師**が教会に侵入し、「**不敬虔**ἀσεβής」な生活を持ち込み、「**エジプトでの奴隷生活**」へ誘惑し、「**神の救いの恵み**」を無にし、「**敬虔**εὐσέβεια」な**神の民の神礼拝の歩み**を破壊しようとしていることに気づいてほしいということなのです。

◆ユダ全1章6～13節;ユダは、罪に堕ちた天使たちの旧約の実例から神(メシヤ)の恵みに逆らうことへ警告しています。

◇5～13節;塚本訳◆前例すでにあり——
旧約の例

「6 また自分の職分を守らず、(勝手に)その居所(なる天)を去っ(て地上に来)た天使達を、(最後の)大なる日の審判のために永遠の鎖を以て(黄泉の)闇の下に監禁して貰うことである。

7 同じくソドムとゴモラもその周囲の町々も、彼ら(天使達)と同じように淫行に耽って道ならぬ肉を追いかけて、永遠の火の刑罰を受ける見せしめになっている。

8 それにも拘らず、かの夢を見ている連中もまた(ソドム、ゴモラと)同じように肉を穢し、(主の)支配権を軽んじ、(天使の)光栄を罵っている。

9 しかし『天使の長ミカエル』(を見よ、彼)は悪魔と議論をしてモーセの屍体に就て争った時、(自ら天使でありながら悪魔をすら)あえて罵り審くことをせず、「『主が汝を

叱り給わんことを』』と言った。

10 しかしこの人達は(何も)知らぬ(天使の)ことを罵り、他方無知な獣と共に本能的に知っていること——(肉の墮落生活)——これによって滅びるのである。

11 禍なる哉、彼らはカインの道を歩み、報酬のためにバラムの迷いに陥り、且つコラの反逆によって亡びた。

12 この人達は君達の愛餐の汚点であって、(君達と)一緒に臆面もなく(席について)腹をふくらしている。(彼らは)また『自分を牧する』(牧者であり、)風に吹きまかれる水の無い雲、二度枯れて死んで根こそぎにされる晩秋の実の無い木、

13 自分の恥辱を泡立たせる海の荒浪、また迷い星であって、彼らのために暗い闇が永遠に取って置かれている。」と、次に、ユダは語っています。

◇7～13節；「自分の職分を守らず、(勝手に)その居所(なる天)を去っ(て地上に来)た天使達を、(最後の)大なる日の審判のために永遠の鎖を以て(黄泉の)闇の下に監禁してい

給う」、「ソドムとゴモラもその周囲の町々も、彼ら(天使達)と同じように淫行に耽って道ならぬ肉を追いかけ、永遠の火の刑罰を受ける見せしめになっている」、「それにも拘らず、かの夢を見ている連中もまた(ソドム、ゴモラと)同じように肉を穢し、(主の)支配権を軽んじ、(天使の)光栄を罵っている」、「『天使の長ミカエル』(を見よ、彼)は悪魔と議論をしてモーセの屍体に就て争った時、(自ら天使でありながら悪魔をすら)あえて罵り審くことをせず、「『主が汝を叱り給わんことを』」と言った」、「この人達は(何も)知らぬ(天使の)ことを罵り、他方無知な獣と共に本能的に知っていること——(肉の墮落生活)——これによって滅びる」、「彼ら(偽教師)はカインの道を歩み、報酬のためにバラムの迷いに陥り、且つコラの反逆によって亡びた」、「この人達は君達の愛餐の汚点であって、(君達と一緒に)臆面もなく(席について)腹をふくらしている。(彼らは)また『自分を牧する』(牧者であり、)風に吹きまかれる水の無い雲、二度枯れて死んで根こそぎにされる晩秋の実の

無い木、」、「自分の恥辱を泡立たせる海の荒浪、また迷い星であって、彼らのために暗い闇が永遠に取って置かれている」、と、ユダは語ろうとしているのです。

⇒ユダは、神の裁きとしての神の民の荒野の旅40年に5節で暗に言及したが、6～13節では、旧約聖書にある(創世記、民数記等)の記録に言及し、天使達の墮落(6)、ソドムとゴモラもその周囲の町々の「不敬虔ἀσεβής」(7)、神が(主の)支配権・権威を託したモーセに逆らった「悪魔」(偽教師を暗示)(8～10)たちの(肉の墮落生活)、神の悦びのアベルを殺害したカイン、神が(主の)支配権・権威を託したモーセに逆らって穴に陥落したコラや目先の利益に目がくらんだバラムらの神の恵みを知りながら、悪の道を歩んだ人々を扱いながら、神の教会を誘惑して、神の御子イエス・キリスト様に反逆させる偽教師・異端に警戒するように語りかけているのです。

⇒ローマ書6章23節の「罪が(奴隷に)払ってくれる給料は死であり、(従う者に与えられる)神の賜物は、わたし達の主イエス・キリストに

おいての永遠の命だからである」と、「神が(主の)支配権・権威を託された神の御子イエス・キリスト様に逆らう者」には、「死の給料の支払」、「神の恵みの賜物」は、「わたし達の主イエス・キリストにおいての永遠の命」であるとの神の救いの保証は不変です。

⇒今日の教会において、神と神の御子イエス・キリスト様がお求めのものは、「敬虔εὐσέβεια」な「神礼拝をするσέβομαι」ことを「訓練・鍛錬γυμνασία」することが基本で、「神のみことばに聴き従い」、「神に祈る」生活なのです。

⇒「アブラハムの神信仰」＝「神の御子イエス・キリスト様に聴従する信仰」に反逆させるように誘惑する「偽教師・異端」は、「悪魔」や「肉の墮落生活」へ導こうとして、紳士、淑女の姿をして、神の教会へ忍び込んで来ます。

⇒「神礼拝をするσέβομαι」、「神のみことばに聴き従い」、「神に祈る」生活の基盤は、神の御子イエス・キリスト様の復活を記念する主日の共同礼拝、個々人の神礼拝以外にはないので、アブラハムの神信仰をもって、天路の道を全うしたいと願います。

結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**ユダ書**は、エルサレム教会の議長ヤコブの弟**ユダ**が、教会の人々を迷わせた**偽教師**、**偽指導者**に迷わされないよう、**警告**を与えた書簡です。
- ◇**ユダ書全1章5～13節**は、**3～4節**の**偽教師**の**忍び込み**の提示と**神信仰**を持つての**偽教師**との**戦いの勧め**に対し、旧約聖書に登場した**神**に対して「**不敬虔**ἀσεβής」な人々を実例として提示して警告しています。
- ⇒「**さばき**」は、**神の専権事項**ですが、同時に、**神の恵み**も、**神の専権事項**です。
- ⇒「**神礼拝**をする**σέβομαι**」「**訓練・鍛錬**γυμνασία」の基本は、「**神のみことばに聴き従い**」、「**神に祈る**」生活なのです。
- ⇒旧約の「**不敬虔**ἀσεβής」な人々は、**神礼拝**を指導する人々を軽んじ、「**偽教師**」の「**肉の墮落生活**」を優先したのです。
- ⇒「**神の御子イエス・キリスト様**」のご自身のいのちを棄てて迄も、「**不敬虔**ἀσεβής」な**罪人**を**愛された**「**神の恵み**」を心に留めたい。